

報告第 2 1 号

平成 3 0 年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価の報告について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、平成 3 0 年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価について、別紙のとおり報告する。

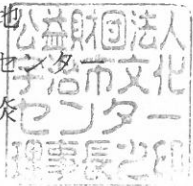
令和元年 9 月 1 7 日提出

宇治市長 山 本 正

元公財字文第58号  
令和元年6月25日

宇治市長 山本 正 様

所在地	宇治市折居台一丁目1番地
法人名	公益財団法人宇治市文化センター
代表者名	理事長 土屋 炎



宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第4条第2項に基づき、次のとおり報告します。

## 宇治市出資法人自己評価報告書

### 1. 法人の概要

団体名	公益財団法人宇治市文化センター	設立年月日	昭和59年10月28日
公益財団法人への移行年月日			平成23年4月1日
基本財産	10,000千円 (移行前 10,000千円 うち市出えん・出資金 10,000千円 出資比率 100%)		
設立目的	すぐれた文化、芸術を企画、公開し、並びに市民の文化活動の育成を図り、もって市民の文化、芸術の普及向上に努め、広く市民文化の振興に寄与する。		

### 2. 役職員の状況

		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		市職員	市OB		市職員	市OB		市職員	市OB	
役員	常勤	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	非常勤	14	3	2	14	3	2	14	3	2
職員	管理職	2	0	2	2	0	2	2	0	2
	一般職	6	0	1	6	0	1	6	0	1
	計	8	0	3	8	0	3	8	0	3

\*役員と職員の兼務は重複して計上している。

### 3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
自主文化事業	音楽、舞踊、演劇、芸能などの舞台芸術公演及び映画上映会等の開催 宇治市文化事業基金を活用した文化会館使用料助成事業
文化会館運営事業 (貸館事業)	文化芸術活動等の利用に対する文化会館の施設・設備の提供
文化センター施設 管理事業	文化センターの施設・設備の保守管理

#### 4. 財務状況

##### 1) 正味財産の状況

(単位：円)

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
収 益	149,112,758	145,935,069	147,423,116
収益事業収益等	9,665,654	7,598,645	9,573,429
市 支 出 金	139,447,104	138,336,424	137,849,687
人 件 費	38,426,453	39,223,668	39,334,136
事 業 費	101,020,651	99,112,756	98,515,551
費 用	149,112,758	145,935,069	147,423,116
人 件 費	38,426,453	39,223,668	39,334,136
事 業 費	110,686,305	106,711,401	108,088,980
当期経常増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
期末正味財産合計額	10,000,000	10,000,000	10,000,000

##### 2) 貸借対照表

(単位：円)

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
資産合計	44,156,683	42,949,682	42,622,089
流 動 資 産	16,553,935	14,657,934	13,636,341
固 定 資 産	27,602,748	28,291,748	28,985,748
負債合計	34,156,683	32,949,682	32,622,089
流 動 負 債	16,553,935	14,657,934	13,636,341
固 定 負 債	17,602,748	18,291,748	18,985,748
正味財産合計	10,000,000	10,000,000	10,000,000
基 本 財 産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
その他正味財産	0	0	0

##### 3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
補 助 金	46,248,398	45,822,502	46,439,723
委 託 料	93,198,706	92,513,922	91,409,964
その他(分担金等)	0	0	0
計	139,447,104	138,336,424	137,849,687
貸 付 金	0	0	0
借入金残高(期末)	0	0	0
市の債務保証残高(期末)	0	0	0
市の損失補償残高(期末)	0	0	0

#### 4) 主要経営指標

指標	算式	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
人件費比率	人件費計÷費用計	25.8%	26.9%	26.7%
自己資本比率	正味財産計÷資産計	22.6%	23.3%	23.5%
流動比率	流動資産÷流動負債	100%	100%	100%
借入金依存度	借入金残高÷総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金÷(減価償却費+税引後利益)	- %	- %	- %

#### 5. 経営評価（法人自己評価）

視点	評価	コメント
目的適合性	A	<p>文化芸術の振興（公益目的事業）を主目的とする宇治市出資法人として自主文化事業を積極的に推進し市民の文化芸術の普及向上に努めるとともに、宇治市文化会館の指定管理者として文化芸術活動を行う利用者の円滑な施設利用に努め、定款に定める法人の目的である「市民文化の振興」に適合した事業活動に取り組んだ。引き続き特色ある自主文化事業の創意工夫や文化会館の円滑な利用及び利用促進に向けた取組が重要である。</p> <p>(1) 自主文化事業の推進</p> <p>宇治市補助金及び京都府補助金の交付や京都府委託事業の認定を受けて、次の事業区分により、市民をはじめ広く文化芸術の参加・鑑賞機会を提供するとともに、市民の文化芸術活動の育成・促進に努めた。</p> <p>□ 鑑賞機会提供事業</p> <p>プロアーティストによる舞台芸術公演（音楽、芸能）及び宇治シネマ劇場を開催し、約8,200人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>宇治シネマ劇場では、無料上映会として「クールスポット宇治シネマ劇場」を開催するとともに、引き続き鑑賞カード（5回鑑賞で次回無料）を発行して集客増員に努め、有料上映会の1日平均入場者数は381人となり、目標の350人を超えることができた。</p> <p>□ 参加創造事業</p> <p>重点取組として、市内の学校や社会教育団体、文化芸術活動団体と連携して、市民が参加創造する舞台芸術公演やワークショップ型公演を積極的に推進し、563人の市民に文化芸術の参加創造機会を提供するとともに、3,697人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供し、宇治市文化会館の特色ある取組を市内外に発信することができた。</p>

〈自主制作型公演〉

- ❖ 交響吹奏楽団オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ  
市内中学校・高等学校吹奏楽部が共演、300人の大合奏演奏クリニック同時開催
- ❖ 参加型ファミリーミュージカル「トム・ソーヤー物語」  
市内小中学生59人がプロ劇団と共演
- ❖ 第15回宇治市第九コンサート「宇治の第九」  
市内外から128人が第九合唱団に参加
- ❖ 源氏物語朗読劇講座  
市内小中高生20人が参加、宇治っ子朗読劇団☆Genjiが市内外の催物で活動成果を発表

〈共催型公演〉

- ❖ 京都府警察音楽隊「宇治に響け！プレミアムコンサート2019」  
市内中学校吹奏楽部が共演、警察広報に参加

□ 普及啓発事業

恒例の宇治市民文化芸術祭を共催し949人の市民に文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、5,450人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供した。

また、宇治市文化事業基金を活用して、市内の団体・サークルなど20団体に文化会館の使用料を助成し、市民の文化芸術活動の育成・促進に努めた。

(2) 文化芸術活動の円滑な実現

ホールの貸館利用に係る「利用担当者制」(同じ職員が打合せから利用終了まで一貫したサポートを行う仕組み)を推進してコーディネート機能の向上を図り、利用者の文化芸術活動の円滑な実現に努めた。

(3) 文化会館の利用促進

これまで取り組んできた利用案内広報の見直しや利用手続の見直し及び文化会館使用料免除制度の活用により、ホール利用では新規・リピーター利用及び市立学校の利用が一定増加するとともに、練習室など関連施設の個別利用は平成28年度から大きく増加している。

ホール利用においては利用者の固定化、利用日の休日集中化の傾向が強く、新規利用、平日利用の促進に向けた有効な取組の検討が重要である。

		<p>〈施設利用実績〉</p> <p>□ 利用日数 大ホールは123日（前年度128日）、小ホールは147日（前年度130日）、ホール全体としては205日（前年度196日）、関連施設全体としては288日（前年度298日）であった。</p> <p>□ 利用人数 宇治市事業の利用が減少したことなどにより、施設全体で137, 194人（前年度142, 514人）であった。</p> <p>□ 利用率 主要施設であるホールは70%（前年度66%）、関連施設は91%（前年度96%）であった。</p>
効率性	A	<p>自主文化事業（鑑賞機会提供事業）の運営にあたっては、引き続きリスク負担の少ない共催型公演に取り組み、少額費用で多様な文化芸術の鑑賞機会の提供に努めるとともに、文化会館運営事業では、夜間の利用管理体制を見直し職員の時間外勤務の一層の縮減に努めた。また、文化センター施設管理事業では安全快適性を優先して計画的に修繕を実施し、経年劣化が進行している施設・設備の効率的な保守・保全に努めた。</p> <p>引き続き、不要不急費用の点検と業務改善を推進し、効率的な業務運営に努めることが重要である。</p>
組織運営健全性	B	<p>関係法令及び定款に従い、評議員会、理事会を運営するとともに、自主文化事業の適正かつ効果的な運営を図るため、外部の有識者を含めた「自主文化事業選定委員会」・「文化会館使用料助成審査委員会」を設置し、健全な組織運営に取り組んだ。</p> <p>事務局の運営にあたっては、重点取組として、研修や訓練を通じて、専門的事務の適正処理、緊急時対応力の向上及び課題事項である舞台運営業務に係る基礎的知識の向上を図るとともに、引き続き業務運営マニュアルの整備に取り組み、適正かつ安定した事務の確立と会館利用に係るコーディネート機能の向上に努めた。加えて業務推進に係る自己目標管理を試行し業務の計画的推進と業務内容の工夫改善に向けた職員の意識向上に努めた。引き続き、法人運営の実務を行う事務局の充実強化に向け継続した取組が必要である。</p>
財務健全性	B	<p>宇治市文化会館条例第3条第1号に定める自主文化事業を行う出資法人として、財務の自立性を高め健全な事業運営を行うため、関係補助制度等の積極的な活用、入場料収入（主催型の場合）・入場券販売手数料収入（共催型の場合）の向上に努めるとともに、他団体からの受託事務や利便設備の設置に伴う手数料収益など、自主財源の積極的な確保に努め、当初の自主文化</p>



		<p>事業収支計画における自主財源目標額を超えることができた。</p> <p>一方で、自主文化事業の主要な財源になっている関係補助制度については、数年度にわたり認定を受けている制度もあることから、今後の継続性に懸念があり、現状の財務状況は良好ではあるが安定した状況にはなく、引き続き、安定した自主財源の確保に向けた方策の検討や自主文化事業の一層の効率的・効果的な運営に努める必要がある。</p>
総合評価	B	<p>平成30年度の事業活動は法人の目的に適合し、健全な組織運営・財務運営に努めたが、引き続き、特色ある自主文化事業の創意工夫と安定した自主財源の確保、文化会館の円滑な利用に向けた取組及び利用促進に向けた有効な取組の検討、職員の人材育成や安定した事務の確立による事務局体制の充実強化を推進する必要がある。</p>

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い